①生活環境への不満と対応

それでは，住宅の問題をはなれて，近くの生活環境の問題で，住みにくくなった理由はなにか，いま，一番解決してもらいたい問題を一つだけあげてもらった〈表41〉。それによると，両地区とも8割以上の住民が，地域の生活環境に不満を感じ，具体的な問題を訴えている。神之木・神之木台周辺では，前の質問で，「生活環境がよくなった」と回答したものが34%もいたのに，ここでは，「とくにない」と回答した人が13%で，「生活環境がよくなった」と答えたもののなかにも，地域の生活環境に不満をもっている人の多いことがわかった。井土ケ谷周辺では，「とくにない」という人が18%で，神之木・神之木台周辺よりもやや多くなっている。

問題別にみると，「大気のよごれ・騒音・振動・悪臭などの公害対策」が，両地区とも24%の同率で第1位，つぎに「道路の拡幅・舗装などの整備や交通安全・混雑対策」が，これも両地区同率の15%でならび，第2位という結果であった。以下，神之木・神之木台周辺では，「教育・文化社会福祉施設」，「防火・防災や緑の確保，公園・ちびっこ広場などの公共施設」の要求が強く，井土ケ谷周辺では，この順位がいれかわって続いていた。

では，こうした地域の生活環境に対する不満や問題を解決するために，市・区役所や問題の場所<騒音・振動・悪臭などを生じさせる工場>に，何らかの手段を通じて

表40　居住年数×生活環境の評価

生活環境＼居住年数	3年未満	7年未満	12年未満	17年未満	27年未満	27年以上	不　明	計
よくなった	33 18.5 〈14.3〉	31 24.6 〈13.4〉	21 25.9 〈9.1〉	32 36.8 〈13.9〉	71 43.6 〈30.7〉	42 25.1 〈18.2〉	1 50.0 〈0.4〉	231人 28.7% 〈100.0〉
変わらない	120 67.4 〈34.9〉	70 55.6 〈20.3〉	39 48.1 〈11.3〉	29 33.3 〈8.4〉	35 21.5 〈10.2〉	50 29.9 〈14.5〉	1 50.0 〈0.3〉	344 42.8 〈100.0〉
わるくなった	23 12.9 〈10.2〉	25 19 8 〈11.1〉	21 25.9 〈9.3〉	26 29.9 〈11.5〉	56 34.4 〈24.8〉	75 44.9 〈33.2〉	0 —	226 28.1 〈100.0〉
わからない	2 1 1 〈66.7〉	0 —	0 —	0 —	1 0.6 〈33.3〉	0 —	0 —	3 0.4 〈100.0〉
計	178 100.0 〈22.1〉	126 100.0 〈15.7〉	81 100.0 〈10 1〉	87 100.0 〈10.8〉	163 100.0 〈20.3〉	167 100.0 〈20.8〉	2 100.0 〈0.2〉	804 100.0 〈100.0〉

注>各欄の数字は　実数／タテ集計%／〈ヨコ集計%〉　というようになっている。

表41　それでは，住宅の問題をはなれてあなたの近くの生活環境のことで，あなたがいま解決したいと思われるのは次の問題のうちどれですか。最も解決してもらいたいと思うものを1つだけあげてください。

	神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
	%	%	%
1.　道路の拡幅・舗装などの整備や交通安全・混雑対策	52 〈15.0〉	68 〈14.9〉	120 〈14.9〉
2.　大気のよごれ・騒音・振動・悪臭・などの公害対策	84 〈24.2〉	110 〈24.1〉	194 〈24.1〉
3.　水道・市営交通・清掃・保健衛生	21 〈6.1〉	16 〈3.5〉	37 〈4.6〉
4.　下水道の整備や川の改修	22 〈6.3〉	25 〈5.5〉	47 〈5.8〉
5.　学校施設・図書館・スポーツ施設などや保育所・老人・身障者などの教育文化社会福祉施設	41 〈11.8〉	44 〈9.6〉	85 〈10.6〉
6.　用途地域や日照などの住宅・土地問題	30 〈8.6〉	42 〈9.2〉	72 〈9.0〉
7.　防火・防災や緑の確保，公園・ちびっこ広場などの公共空地	39 〈11.2〉	64 〈14.0〉	103 〈12.8〉
8.　その他<具体的に　>	12 〈3.5〉	8 〈1.8〉	20 〈2 5〉
9.　とくにない	46 〈13.3〉	80 〈17.5〉	126 〈15.7〉
計	347〈100.0〉	457〈100.0〉	804〈100.0〉

訴えたり，具体的な方法で行動したことがあるかどうか<表42>。

その結果，「したことがある」と回答したものは，神之木・神之木台周辺が22%，井土ケ谷周辺が14%で，神之木・神之木台周辺に住む人の方が多かった。またその方法では，両地区とも，「自治会・町内会など地域の団体や近所の有力者の人に話をして協力してもらった」という回答が多かった。

逆に，「不満はあるが，とくに何もしていない」と回答したものは，両地区ともに全体の約半数を占めていたが井土ケ谷周辺に住む人の方がやや多かった。そして，理由はともあれ，「何もしていない」という人<②，③の回答>をあわせると，神之木・神之木台周辺では78%，井土ケ谷周辺では86%になった。前の質問で，8割以上の住民が，地域の生活環境のことで，解決したい問題をあげたことを考えると，これはどのように解釈したらよいのであろうか。ともかく，多くの住民が地域の生活環境の問題で不満を感じていても，その気持とは別に，具体的に解決するための行動は，2割前後の人々だけが何らかの手段を通じておこし，残りの人々はこれらの行動とはほとんど無関係に生活している，ということはいえそうである。

それでは，「不満はあるが，とくに何もしていない」と回答したものは，なぜ，市・区役所や問題の場所に要求をださないのであろうか<表43>。

表42　こうした地域の生活環境に対する不満や問題を解決するために，あなたのお宅では具体的な方法で何かなさいましたか，次にあげる中でおやりになったことがありましたら，いくつでもお答えください。

		神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
		%	%	%
1. したことがある	1. あなた，または家族の方が直接・間接に問題の場所や市・区役所に申し入れをした	21 〈6.1〉	22 〈4.8〉	43 〈5.3〉
	2. 近所の人々と一緒に問題の場所や市・区役所などへでかけて申し入れをした	14 〈4.0〉	10 〈2.2〉	24 〈3.0〉
	3. 自治会・町内会など地域の団体や近所の有力者の人に話をして協力してもらった	37 〈10.7〉	33 〈7.2〉	70 〈8.7〉
	4. 市会議員や県会議員に話をして協力してもらった	20 〈5.8〉	15 〈3.3〉	35 〈4.4〉
	5. その他<具体的に　　>	5 〈1.4〉	4 〈0.9〉	9 〈1.1〉
	<「複数回答」>　回答者数	**78 〈22.4〉**	**66 〈14.4〉**	**144 〈17.9〉**
2. 不満はあるが，とくに何もしていない		162 〈46.7〉	224 〈49.0〉	386 〈48.0〉
3. 不満がないから何もしていない		107 〈30.9〉	167 〈36.6〉	274 〈34.1〉
計		347〈100.0〉	457〈100.0〉	804〈100.0〉

注>「複数回答」なので，回答数が回答者数を上まわるが，全体の回答者数を100%として集計してある。

表43　〔不満はあるが何もしていない方に〕不満があるのに問題の場所や市・区役所に要求をださないのはなぜですか。次の中であなたのお考えに一番近いものを1つだけ選んでください。

	神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
	%	%	%
1. 要求をだすひまがない	11 〈6.8〉	23 〈10.3〉	34 〈8.8〉
2. 要求をだす方法がわからない	12 〈7.4〉	16 〈7.1〉	28 〈7.3〉
3. そんな問題にかかわるのはめんどうだ	4 〈2.5〉	11 〈4.9〉	15 〈3.9〉
4. 要求をだしても，どうせすぐには解決しないだろう	58 〈35.8〉	69 〈30.8〉	127 〈32.9〉
5. 誰かがやってくれるのをまつ	5 〈3.1〉	2 〈0.9〉	7 〈1.8〉
6. 自治会・町内会が要求をだすべきだ	23 〈14.2〉	25 〈11.2〉	48 〈12.4〉
7. 今後何らかの方法で要求をだすつもりだ	8 〈4.9〉	14 〈6.3〉	22 〈5.7〉
8. これくらいの不満は，いまの都市生活ではしんぼうすべきだ	29 〈17.9〉	57 〈25.4〉	86 〈22.3〉
9. 地域の問題に関心がない	12 〈7.4〉	7 〈3.1〉	19 〈5.0〉
計	162〈100.0〉	224〈100.0〉	386〈100.0〉

一番多かったのは，「要求をだしても，どうせすぐには解決しないだろう」と回答した人で，両地区とも，全体の3割以上になった。つぎが，「これくらいの不満は，いまの都市生活ではしんぼうすべきだ」で，神之木・神之木台周辺が18%，井土ケ谷周辺が25%という結果であった。第1位のあきらめの気持の人と，しんぼうしようという人たちをあわせると，この2つがおもな理由となって，両地区ともに半数をこえていた。そして，「自治会・町内会が要求をだすべきだ」，「要求をだすひまがない」，「要求をだす方法がわからない」などの理由，つまり不満を訴えたい気特の人がこれに続き，両地区ともに，あわせて全体の3割近くを占めた。

②地区との結びつきと定住性

神之木・神之木台，井戸ケ谷周辺に住む人々は，両地区にある団体や住民組織に，どれ位参加しているのであろうか。つぎの団体について，本人または家族のものが加入している会やサークルがあれば，すべてあげてもらった。その結果は，表44のようだった。

それによると，「どれにもはいっていない」と回答した人は，神之木・神之木台周辺が18%，井土ケ谷周辺が25%で，両地区ともに8割前後の世帯が何らかの団体や組織に加入していることになる。これらのなかでは，「自治会・町内会」への加入率が，そのほかのものにくらべてきわめて高いことが注目される。しかし，ここで注意すべき点は，両地区とも，各自治会を平均した実際の組織率が90%前後になるのに，住民の加入意識の方が，それぞれ低くなっていることである。

この原因として考えられるのは，住民の自治会に加入する動機が，「周囲の人たちも加入しているのでなんとなく」という消極的な理由から「要望を解決するために」という積極的なものまであって，それぞれ参加への姿勢に強弱があり，前者のグループ，つまり，自治会活動にあまり関心のない人たち，もしくは地域とのつながりの薄い民間アパートに住む人たちが，実際には組織に加入していても，日常的には会員としての意識をもたず,「自治会・町内会」をあげなかったものと思われる。それにしても，井土ケ谷周辺の住民の加入意識は65%で，実際の組織率とでは25%のひらきがあり，少し極端すぎるようである。

では，地区との結びつきについては，どのように感じているのであろうか<表45>。

それによると，「仕事の場所，あるいはおとくいさんなどがこの地区の中にあるから，この地区とは経済的に強く結びついている」と回答した人が，両地区ともほぼ同率で16%前後，同じく「とくに経済的に強く結びついているわけではないが，長い間住んでいて知人も多く，生活もしやすいので，この地区とは強い結びつきがある」

表44　あなたのお宅の近所にもいろいろな団体や組織があると思いますが，次の団体についてあなたのご家族の方が加入している会やサークルがあれば○印をつけてください。

	神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
	%	%	%
1. 自治会・町内会	262〈75.5〉	298〈65.2〉	560〈69.7〉
2. 子ども会	33〈9.5〉	69〈15.1〉	102〈12.7〉
3. P.T.A	63〈18.2〉	78〈17.1〉	141〈17.5〉
4. 趣味や芸ごとの会	16〈4.6〉	18〈3.9〉	34〈4.2〉
5. スポーツや旅行・レクリエーション関係の会	17〈4.9〉	21〈4.6〉	38〈4.7〉
6. 文化・政治・宗教に関係のある会	34〈9.8〉	40〈8.8〉	74〈9.2〉
7. 社会奉仕のための会	8〈2.3〉	9〈2.0〉	17〈2.1〉
8. その他<具体的に　>	13〈3.7〉	6〈1.3〉	19〈2 4〉
9. どれにもはいっていない	62〈17.9〉	116〈25.4〉	178〈22.1〉
<「複数回答」> 回答者数	347〈100.0〉	457〈100.0〉	804〈100.0〉

注>「複数回答」なので，回答数が回答者数を上まわるが，回答者数を100%として集計してある。したがって，それぞれの比率が加入意識を示す。

が38%前後で，とにかく，地区との強い結びつきを表明した世帯は，全体の半数をこえていた。逆に，「とくに経済的に結びついてもいないし，また近所の人々とのつながりもなく，たまたま，この地区に住宅があったから住んでいるまでである」と回答した人は，両地区ともに41%前後という結果であった。

前の質問で，地区にある団体や住民組織に「どれにもはいっていない」と回答したものが2割前後，この質問で「たまたま住んでいる」と回答したものが4割強という結果をそれぞれ考えあわせると，先程の自治会の組織率と住民の加入意識とのズレは，地域の自治組織への関心が薄い住民の姿勢を反映したものと思われる。

つぎに，地区との結びつきを居住年数別にみると，「知人が多い」と回答したものは，30年以前からの居住者に多く，40年以降の居住者に少なかった。そして，「たまたま住んでいる」の回答では，逆に，35年以降激増し，3年未満で，75%がこの回答に集中するという，きわめて対照的な結果であった。つまり，当然のことだが，居住年数が長くなれば，地区との結びつきも強まるという傾向がみられた。また，「経済的に」と回答したものは31～35年・41～45年のあいだの転入者に多かった。しかし，はっきりとした傾向はつかみにくい<表46>。

ここで注意すべき点は，30年以前からの居住者と，40年以降の居住者の住居形態をみると，前者の8割までが一戸建持家であるのに対して，後者の9割近くが民間アパートや一戸建借家などの賃貸住宅であるということである<表47>。このことは，地区との結びつきが，居住年数だけでなく，住居形態とも深い関係があることを示している。そこで，住宅の所有形態別に住宅不満の改善策をみると，一戸建持家に住む人では，7割以上が「今の場所に住みつづけたい」と回答しているのに対して，民間アパートや一戸建借家などの賃貸住宅では，逆に，7割近くが移転希望を表明しており，地区への定住性がきわめて低くなっている<表48>。これらのことを考えあわせると，地区との結びつきは，住宅事情と定住性の問題が深い影響を与えていると思われる。

表45　あなたのお宅と井土ケ谷地区<神之木・神之木台・入江地区>との結びつきについては，次のどれにあたりますか。

	神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
	%	%	%
1. 仕事の場所，あるいはおとくいさんなどがこの地区の中にあるから，この地区とは経済的に強く結びついている	52 〈15 0〉	79 〈17.3〉	131 〈16.3〉
2. とくに経済的に強く結びついているわけではないが，長い間住んでいて知人も多く，生活もしやすいので，この地区とは強い結びつきがある	137 〈39.5〉	168 〈36.8〉	305 〈37.9〉
3. とくに経済的に結びついてもいないし，また近所の人々とのつながりもなく，たまたま，この地区に住宅があったから住んでいるまでである	142 〈40.9〉	193 〈42.2〉	335 〈41,7〉
4. わからない	16 〈4.6〉	17 〈3.7〉	33 〈4.1〉
計	347〈100.0〉	457〈100.0〉	804〈100.0〉

表46　居住年数×地区との結びつき

結びつき＼居住年数	3年未満	7年未満	12年未満	17年未満	27年未満	27年以上	不明	計
経済的に	23 12.9 〈17.6〉	24 19.0 〈18.3〉	11 13.6 〈8.4〉	21 24.1 〈16.0〉	30 18 4 〈22.9〉	22 13.2 〈16.8〉	0 —	131人 16.3% 〈100.0〉
知人が多い	22 12.4 〈7 2〉	37 29.4 〈12.1〉	31 38.3 〈10 2〉	36 41.4 〈11.8〉	77 47.2 〈25.2〉	102 61.1 〈33.4〉	0 —	305 37.9 〈100.0〉
たまたま住んでいる	128 71.9 〈38.2〉	61 48.4 〈18.2〉	35 43.2 〈10.4〉	28 32.2 〈8.4〉	51 31.3 〈15.2〉	30 18.0 〈9.0〉	2 100.0 〈0.6〉	335 41.7 〈100.0〉
わからない	5 2.8 〈15.2〉	4 3.2 〈12.1〉	4 4.9 〈12.1〉	2 2.3 〈6.1〉	5 3.1 〈15.2〉	13 7.8 〈39.4〉	0 —	33 4.1 〈100.0〉
計	178 100.0 〈22.1〉	126 100.0 〈15.7〉	81 100.0 〈10.1〉	87 100.0 〈10.8〉	163 100 0 〈20.3〉	167 100.0 〈20.8〉	2 100.0 〈0.2〉	804 100.0 〈100.0〉

では最後に，地区との結びつきと定住性との関係をみておこう<表49>。

まず，「経済的に」と回答したものでは，定住希望が58%，移転希望が41%という結果であった。つぎに，「知人が多い」では，定住希望が65%，移転希望が35%で，「今の場所に住みつづけたい」という気持が一番強かった。逆に，「たまたま住んでいる」では，定住希望が40%，移転希望が59%で，とにかく移りたいという気持の人の方が多かった。

表47　住居形態×居住年数

住居形態／居住年数	一戸建持家	分譲マンション分譲団地	一戸建借家	市〈県〉営・公団などの賃貸住宅	社宅公務員住宅	民間賃貸アパート	間借り下宿	寮	その他	計
3年未満	7.9	0 6	7.9	15.7	4.5	50.0	8.4	3.9	1.2	178人 100.0%
7年未満	9.5	—	25.4	3.2	3.2	42.1	9.5	3.2	4.0	126人 100.0%
27年未満	79.1	0.6	7.4	3.1	1.8	3.7	0.6	—	3.7	163人 100.0%
27年以上	83.2	1.2	5 4	—	0.6	3.0	1.2	—	5.4	167人 100.0%

表48　住みつづけたいか×住宅の所有形態

住宅改善策／住宅所有形態	今の場所に住みつづけたい	できるだけ近くで住みかえたい	郊外へ移り住みたい	その他	わからない	計
持家<借地を含む>	277 65.4 〈74.1〉	19 12.1 〈5.1〉	55 40.7 〈14.7〉	21 26.3 〈5.6〉	2 33.3 〈0.5〉	374人 46.5% 〈100.0〉
借家・民間アパート・市〈県〉営・公団などの賃貸住宅	107 25.1 〈32,6〉	113 72.0 〈34.5〉	59 43.7 〈18.0〉	47 58.8 〈14.3〉	2 33.3 〈0.6〉	328 40.8 〈100.0〉
その他，間借・下宿独身寮など	37 8.7 〈39 8〉	22 14 0 〈23.7〉	20 14.8 〈21 5〉	12 15.0 〈12.9〉	2 33.3 〈2.2〉	93 11.6 〈100.0〉
不明・無回答	5 1.2 〈55.6〉	3 1 9 〈33.3〉	1 0.7 〈11.1〉	0 —	0 —	9 1.1 〈100.0〉
計	426 100.0 〈53.0〉	157 100.0 〈19.5〉	135 100.0 〈16.8〉	80 100.0 〈9.9〉	6 100.0 〈0.7〉	804 100.0 〈100.0〉

表49　住みつづけたいか×地区との結びつき

住宅改善策／結びつき	今の場所に住みつづけたい	できるだけ近くで住みかえたい	郊外へ移り住みたい	その他	わからない	計
経済的に	76 17 8 〈58.0〉	22 14.0 〈16.8〉	17 12.6 〈13.0〉	14 17.5 〈10.7〉	2 33.3 〈1.5〉	131人 16.3% 〈100.0〉
知人が多い	198 46.5 〈64.9〉	47 29.9 〈15.4〉	42 31.1 〈13 8〉	17 21.3 〈5 6〉	1 16 7 〈0.3〉	305 37.9 〈100.0〉
たまたま住んでいる	134 31.5 〈40.0〉	80 51.0 〈23.9〉	71 52.6 〈21.2〉	47 58 8 〈14 0〉	3 50.0 〈0.9〉	335 41 7 〈100 0〉
わからない	18 4.2 〈54.2〉	8 5.1 〈24.2〉	5 3 7 〈15.2〉	2 2 5 〈6 1〉	0 —	33 4.1 〈100.0〉
計	426 100.0 〈53.0〉	157 100.0 〈19.5〉	135 100.0 〈16.8〉	80 100.0 〈10 0〉	6 100.0 〈0.7〉	804 100.0 〈100.0〉

注>各欄の数字は　実数／タテ集計%／〈ヨコ集計%〉　というようになっている。

③環境整備に関する住民の意見

これまで，住宅や境環への不満と対応策，地区との結びつきなどについて，住民の日頃の生活意識や行動をみてきたが，それとは別に，住工混合地域と呼ばれる両地区の環境を，具体的によくするためにはどういうことが必要か，その問題に限って住民の意見を集約してみた。

まず，両地区の環境をよくするためには，どういう対策を必要とするか，つぎにあげる①～⑥の整備手法について，一番必要だと思う項目をえらんでもらった〈表50〉。その結果，「現状のままでよい」という意見は，神之木・神之木台周辺が21%，井土ケ谷周辺が25%で，両地区とも,残る8割近くの人々が何れかの項目をあげている。しかし，これらの項目は，整備手法としてどれも必要なものばかりであり，解決したい問題が山積し，長年被害を受けている地区であるが故に，対策の決め手はみあたらず，こうした悩みを反映して，ほとんどの項目に回答が分散していた。また，「どうしてよいかまったくわからない」と回答する人も多く＜神之木・神之木台周辺が15%，井土ケ谷周辺が11%＞，こうしたことを考えあわせると，単一の整備手法だけでは充分でない，つまり，住民が納得する整備手法にはならないことがわかる。

ともあれ，両地区とも，「地域全体を住宅と工場に分けてまったく造りかえてしまう」という全面的な地区再開発論＜その割合は，神之木・神之木台周辺が14%，井土ケ谷周辺が10%＞よりは，「工場や作業場を制限し，少しずつ改善していく」・「工場の公害防止や植樹をして少しずつ改善していく」・「道路をひろくし整備する」などの手法をあわせた漸進的な地区整備論＜①～⑤の回答をあわせて，両地区とも5割前後＞の方が強かった。

つぎに，住工混合地区の改善策として，ごく一般的にいわれている「工場移転」の問題について意見を集約してみよう＜表51＞。

まず，工場は移転する方がよいか，残す方がよいか。神之木・神之木台周辺では「移転する方がよい」45%,「残す方がよい」6%，「どちらともいえない」が48%，一方の井土ケ谷周辺では，「移転する方がよい」50%,「残す方がよい」4%，「どちらともいえない」が46%，という結果であった。両地区をくらべると，神之木・神之木台周辺の方に「残す方がよい」，井土ケ谷周辺の方に「移転する方がよい」，と回答するものが，それぞれやや多かったが，ともに「どちらともいえない」が半数近くを占めていた。つまり,両地区住民には,「工場移転」の問題について，簡単には割り切れない複雑な背景があるものと思われる。

移転の可否の理由について。「移転する方がよい」の回答者では，両地区とも，その約半数が「街がきれいになり公害がへる」をあげ，27%前後の人が「あと地を住宅や公園に利用できる」と回答し，この2つがおもな理由となっていた。また，「工場は残す方がよい」と回答したものは，神之木・神之木台周辺で「通勤が遠くなり困

表50　このあたりは，中小の工場の作業場と住宅が入りまじっていて，住工混合地域と呼ばれていますが，あなた自身はこの環境をよくするためにどういうことが必要だと思いますか。一番必要だと思うことを次の中から1つだけあげてください。

	神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
	%	%	%
1. 道路をひろくし，整備する	33 〈9.5〉	58 〈12.7〉	91 〈11.3〉
2. 住宅を建て替え，高層・不然化する	21 〈6.1〉	30 〈6.6〉	51 〈6.3〉
3. 公園・保育所など公共施設を整備する	20 〈5.8〉	40 〈8.8〉	60 〈7.5〉
4. 工場や作業場を制限し，少しずつ改善していく	39 〈11.2〉	68 〈14.9〉	107 〈13.3〉
5. 工場の公害防止や植樹をして少しずつ改善していく	48 〈13.8〉	41 〈9.0〉	89 〈11.1〉
6. 地域全体を住宅と工場に分けてまったく造りかえてしまう	50 〈14.4〉	47 〈10.3〉	97 〈12.1〉
7. その他＜具体的に　　＞	11 〈3.2〉	9 〈2.0〉	20 〈2.5〉
8. どうしてよいかまったくわからない	51 〈14.7〉	52 〈11.4〉	103 〈12.8〉
9. 現状のままでよい	74 〈21.3〉	112 〈24.5〉	186 〈23.1〉
計	347〈100.0〉	457〈100.0〉	804〈100.0〉

る」・「その他」，井土ケ谷周辺で「その他」・「工場が移転すると街がさびれる」などの順位で理由をあげた。しかし，サンプル数が少なく，「その他」の理由をあげる人も多いので，断定することはできない。

では，生活環境の評価，地区との結びつき，などの日頃の生活意識を軸にして，「工場移転」に関する意見の分れ方をみてみよう。

まず，生活環境の評価とのクロス集計では，生活環境が「わるくなった」という人の6割近くが，「移転する方がよい」と回答している。逆に，「よくなった」という人では，「どちらともいえない」が48%，「移転する方がよい」44%，「残す方がよい」9%という結果で,「残す方がよい」の回答者は，ここだけで全体の半数を占めていた。また，「変わらない」という人の約半数が「どちらともいえない」と回答し，一番高い比率になった。つまり，「移転する方がよい」では，「変わらない」・「わるくなった」が多く，「残す方がよい」では，「よくなった」が半数を占め，「どちらともいえない」では「変わらない」が半数近くになっている<表52>。

つぎに，地区との結びつきを軸にしてみると，「経済的に」強く結びついている人では，「知人が多い」・「たまたま住んでいる」人の回答結果にくらべて，「どちらともいえない」<55%>・「残す方がよい」<15%>が多く，「移転する方がよい」<31%>は少なかった。「残す方がよい」の回答者は，ここだけで，全体の約半数を占めている。逆に，「知人が多い」・「たまたま住んでいる」人のあいだでは，ともに約半数が「移転する方がよい」と回答し，「残す方がよい」はきわめて少なかった。<表53>。

また，職業別にみると，自営業では，「移転する方がよい」41%，「残す方がよい」7%，「どちらともいえない」が52%，という結果であった。「残す方がよい」・「どちらともいえない」の回答者のなかでは，労務職と自営業の占める割合が高く，両者をあわせると，それぞれ半数をこえていた。逆に，公務員の74%，専門技術職の67%，管理職の54%が「移転する方がよい」と回答し，

表51　住工混合地区の改善策としては一般的にいって個人または集団で工場をこの地区から移転した方がよいとの意見があります。あなた自身は工場や作業場をこの地区から移転することについてどうお考えですか。それはどんな理由からでしょうか。1つだけあげてください。

		神奈川区 神之木・神之木台周辺	南区 井土ケ谷周辺	計
		%	%	%
1. 工場は移転する方がよい	1. 街がきれいになり公害がへる	79 〈50.3〉	111 〈48.7〉	190 〈49.4〉
	2. 自動車がへって住みやすくなる	23 〈14.6〉	40 〈17.5〉	63 〈16.4〉
	3. 地区外の方が自由に工場をひろげられる	7 〈4.5〉	11 〈4.8〉	18 〈4.7〉
	4. あと地を住宅や公園に利用できる	44 〈28.0〉	60 〈26.3〉	104 〈27.0〉
	5. あと地が商店やオフィスになると地価があがる	0 —	1 〈0.4〉	1 〈0.3〉
	6. その他＜　　＞	4 〈2.6〉	5 〈2.2〉	9 〈2.4〉
	小計	**157 〈45.2〉**	**228 〈49.9〉**	**385 〈47.9〉**
		%	%	%
2. 工場は残す方がよい	1. 通勤が遠くなり困る	10 〈45.5〉	3 〈16.7〉	13 〈32.5〉
	2. 工場が移転すると街がさびれる	3 〈13.6〉	6 〈33.3〉	9 〈22.5〉
	3. 主婦や家族の内職副業に困る	1 〈4.5〉	0 —	1 〈2.5〉
	4. ここは工場地として発展させた方がよい	3 〈13.6〉	2 〈11.1〉	5 〈12.5〉
	5. その他＜　　＞	5 〈22.7〉	7 〈38.9〉	12 〈35.0〉
	小計	**22 〈6.3〉**	**18 〈3.9〉**	**40 〈5.0〉**
3. どちらともいえない	(理由があれば書いてください　　)	**168 〈48.4〉**	**211 〈46.2〉**	**379 〈47.1〉**
	計	**347〈100.0〉**	**457〈100.0〉**	**804〈100.0〉**

ほかの職業にくらべて，高い比率を示した<表54>。

最後に，「工場移転」に関する意見と，地区改善策を地域別にクロス集計した表を載せておこう<表55>。

しかし，「工場移転」の問題では，今回の調査が住民登録簿を使用して対象者を抽出しているために，事業所の意向を充分把握できず，自営業や労務職でも，その半数以上が「どちらともいえない」と回答しており，さらに詳しく補足の調査をしてみなければ，評価の定まらない問題が多く，一方の地区改善策にしても，住民の立場によって意見の分れる問題であり，なお調査を具体的に深めることなしにこの表を読みこむことは，現在のところ誤った判断をおかしやすい。したがって，ここでは調査データだけを収録し，この表の分析については，今後の研究のなかで少しずつ明らかにしていきたい。

表52　生活環境の評価×工場移転

工場の移転＼生活環境の評価	よくなった	変わらない	わるくなった	わからない	計
工場は移転する方がよい	101 43.7 〈26.2〉	149 43.3 〈38.7〉	133 58.8 〈34.5〉	2 66.7 〈0.2〉	385人 47.9% 〈100 0〉
工場は残す方がよい	20 8.7 〈50.0〉	14 4.1 〈35.0〉	6 2.7 〈15.0〉	0 — 	40 5.0 〈100.0〉
どちらともいえない	110 47.6 〈29.0〉	181 52.6 〈47 8〉	87 38.5 〈23.0〉	1 33.3 〈0.3〉	379 47.1 〈100 1〉
計	231 100.0 〈28.7〉	344 100.0 〈42.8〉	226 100.0 〈28.1〉	3 100.0 〈0.4〉	804 100.0 〈100.0〉

表53　地区との結びつき×工場移転

工場の移転＼地区との結びつき	経済的に	知人が多い	たまたま住んでいる	わからない	計
工場は移転する方がよい	40 30.5 〈10.4〉	162 53 1 〈42.1〉	169 50.4 〈43.9〉	14 42 4 〈3.6〉	385人 47.9% 〈100.0〉
工場は残す方がよい	19 14.5 〈47 5〉	11 3.6 〈27.5〉	10 3.0 〈25 0〉	0 — 	40 5.0 〈100.0〉
どちらともいえない	72 55.0 〈19.0〉	132 43.3 〈34.8〉	156 46.6 〈41.2〉	19 57.6 〈5.0〉	379 47.1 〈100.0〉
計	131 100.0 〈16.3〉	305 100.0 〈37.9〉	335 100 0 〈41.7〉	33 100.0 〈4.1〉	804 100.0 〈100.0〉

表54　職業×工場移転

工場の移転＼職業	自営業	公務員	管理職	専門技術職	事務職	労務職	無職	分類不能不明	計
工場は移転する方がよい	69 41.3 〈17.9〉	22 74.4 〈8 3〉	44 53.7 〈11.4〉	20 66.7 〈5.2〉	34 43.0 〈8.8〉	116 44 3 〈30.1〉	29 45.3 〈7.6〉	41 53.2 〈10.6〉	385人 47.9% 〈100.0〉
工場は残す方がよい	11 6.6 〈27.5〉	2 4.7 〈5.0〉	5 6.1 〈12.5〉	3 10.0 〈7.5〉	3 3.8 〈7.5〉	12 4.6 〈30.0〉	2 3 1 〈5 0〉	2 2.6 〈5.0〉	40 5.0 〈100.0〉
どちらともいえない	37 52 1 〈23.0〉	9 20.9 〈2.4〉	33 40.2 〈8.7〉	7 23.3 〈1.8〉	42 53.2 〈11.1〉	134 51.1 〈35.4〉	33 51.6 〈8 7〉	34 44.2 〈9.0〉	379 47.1 〈100.0〉
計	167 100.0 〈20.8〉	43 100.0 〈5.3〉	82 100.0 〈10.2〉	30 100 0 〈3.7〉	79 100.0 〈9.8〉	262 100.0 〈32.6〉	64 100.0 〈7.9〉	77 100.0 〈7.0〉	804 100.0 〈100.0〉

注>各欄の数字は　実数
タテ集計%
〈ヨコ集計%〉　というようになっている。

表55　地区改善策×工場移転

地域	神奈川区神之木・神之木台周辺				南区井土ケ谷周辺			
工場の移転 / 地区改善策	工場は移転する方がよい	工場は残した方がよい	どちらともいえない	計	工場は移転する方がよい	工場は残した方がよい	どちらともいえない	計
道路をひろくし，整備する	12 7.6 〈36.4〉	2 9.1 〈6.1〉	19 11.3 〈57.6〉	33人 9.5% 〈100.0〉	33 14.5 〈56.9〉	3 16.7 〈5.2〉	22 10.4 〈37.9〉	58人 12.7% 〈100.0〉
住宅を建て替え，高層・不燃化する	12 7.6 〈57.1〉	2 9.1 〈9.5〉	7 4.2 〈33.3〉	21 6.1 〈100.0〉	17 7.5 〈56.7〉	3 16.7 〈10.0〉	10 4,7 〈33.3〉	30 6.6 〈100.0〉
公園・保育所など公共施設を整備する	8 5.1 〈40.0〉	0 —	12 7.1 〈60.0〉	20 5.8 〈100.0〉	16 7.0 〈40.0〉	2 11.1 〈5.0〉	22 10.4 〈55 0〉	40 8.8 〈100.0〉
工場や作業場を制限し，少しずつ改善していく	28 17.8 〈71.8〉	2 9.1 〈5.1〉	9 5.4 〈23.1〉	39 11.2 〈100.0〉	50 21.9 〈73.5〉	2 11.1 〈2.9〉	16 7.6 〈23.5〉	68 14.9 〈100.0〉
工場の公害防止や植樹をして，少しずつ改善していく	22 14.0 〈45.8〉	3 13.6 〈6.3〉	23 13.7 〈47.9〉	48 13.8 〈100.0〉	19 8.3 〈46.3〉	0 —	22 10.4 〈53.7〉	41 9.0 〈100.0〉
地域全体を住宅と工場に分けてまったく造りかえてしまう	35 22.3 〈70.0〉	4 18.2 〈8.0〉	11 6.5 〈22.0〉	50 14.4 〈100.0〉	39 17.1 〈83.0〉	6 —	8 3.8 〈17.0〉	47 10.3 〈100.0〉
その他<具体的に　　>	4 2.5 〈36.4〉	0 —	7 4.2 〈63.6〉	11 3.2 〈100.0〉	5 2.2 〈55.6〉	0 —	4 1.9 〈44.4〉	9 2.0 〈100.0〉
どうしてよいかまったくわからない	19 12.1 〈37.3〉	2 9.1 〈3.9〉	30 17.9 〈58.8〉	51 14.7 〈100.0〉	18 7.9 〈34.6〉	4 22.2 〈7.7〉	30 14.2 〈57.7〉	52 11.4 〈100.0〉
現状のままでよい	17 10.8 〈23.0〉	7 31.8 〈9,5〉	50 29.8 〈67.6〉	74 21.3 〈100.0〉	31 13.6 〈27.7〉	4 22.2 〈3.6〉	77 36.5 〈68.8〉	112 24.5 〈100.0〉
計	157 100.0 〈45.2〉	22 100.0 〈6.3〉	168 100.0 〈48.4〉	347 100.0 〈100.0〉	228 100.0 〈49.9〉	18 100.0 〈3.9〉	211 100.0 〈46.2〉	457 100.0 〈100.0〉

注>各欄の数字は　実数 / タテ集計% / 〈ヨコ集計%〉　というようになっている。

5――――――残された問題

―今後の作業予定―

今回の調査は，両地区のおおまかな実情をさぐるのが目的であった。しかし，調査の結果から，両地区には，住宅や生活境環に関連して，実に広範多岐にわたる問題が内在していることがわかった。とりわけ，従来の都市計画的な手法では，こうした既成市街地の住工混合地域の環境整備策としては，土地利用の純化だけが強調されて都市再開発法・住宅地改良法・土地区画整理法などがあげられていたが，横浜市や他都市の事例をみてもわかるように，狭い面積に多くの住民が生活し，住民間の階層もバラバラで，その利害関係もいり組んでおり，これらの単一の手法を適用するだけでは，有効な整備手法となりえないことがわかった。

したがって，「計画部会」では，この調査結果をふまえて，住工混合地域のより有効な整備手法や問題解決の手段を研究していくために，つぎの作業を予定している。

①住民の「生の意見」から問題をほりおこす――自由回答欄に記入された意見から，地区の住民がかかえている問題をさらに詳しく補足調査し，個々の問題を通じて，地区の実態を深く知ることである。

②住民に接するなかで，問題の本質をさぐる――いくつかの事例について，「計画部会」のメンバーが，問題や悩みをかかえて生活している住民と，直接面接するなかで，より実証的に地区の実情をつかみ，あわせて，くまなく現地を歩き，地区の精通者である住民と役所の職員との意識的な開きをうめたい。

③基礎データの集積と他地域との比較――地区を客観的に理解できる基礎データを積み重ねるなかで，調査結果を深く理解し，地区の特殊性と固有の問題点を客観的に抽出して,何が主要な問題であるかをはっきりさせたい。

④以上の作業結果をふまえて，現状での環境整備の制約と可能性をさぐる――そのひとつは，現在の行財政制度内で実現可能な問題と，不可能な問題とに分けることであり，また，地区の住民からの要求で，役所が応じられる範囲を明らかにすることである。もうひとつは，住宅・アパート・工場・商店が混在している両地区のような混合地域では，現行制度の不備をついた法律の改正だけでは，甚だ不十分であり，都市計画技術の革新，社会福祉・中小企業施策や財政面の検討などを含めた総合的な「計画」と可能性の追求が必要であろう。

これらの作業を続けるなかで，既成市街地の不良環境地区の有効な整備手法を模索したい。しかし，いくら有効な手法がみいだせたとしても，住んでいる住民の環境整備へのエネルギーが，具体化の鍵を握っていることは，言うまでもない。そこで，都市計画的な手法を研究することのほか，これまでの「役所の計画」に対する住民の受けとめ方についても具体的に考えていきたいと思う。

ともあれ，この作業は第一歩を踏みだしたばかりであるが，従来の「都市計画」や「役所の計画」にいろいろな問題意識をもっている職員が，「計画部会」に随時参加し，今後の作業プロセスを消化していきたいと思っている。

※　　※　　※

なお，「計画部会」のメンバーは，岩崎駿介<企画調整局・主査>・岡村　駿<同・都市科学研究室>・北小路清<同・調整係長>・地曳良夫<同・企画課>・高井労<計画局・副主幹>・内藤惇之<企画調整局・主査>・長谷川雅彦<同・企画課>・水島敏彦<同・主査>の8名ですが，今後とも積極的に作業をすすめたいと思いますので多くの職員の方々の参加をお待ちします<連絡先――岡村・内線2544，地曳・内線2538>。

また，今回の調査レポートの作成は，「計画部会」で共同討議し，その結果も含めて，1・2・4章を岡村が，3・5章を地曳が，それぞれ執筆分担したものであり，文責はすべて筆者にあることをおことわりします。